

活動成果報告書

平成29年度（第21回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

花見川糖尿病0プロジェクト
～地域で取り組む生活習慣病予防の普及啓発活動～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

千葉市花見川区役所保健福祉センター 健康課
代表者：久保田 真理

勤務先：千葉市花見川区役所保健福祉センター

所属：健康課 健康づくり班

所在地：〒262-8510

千葉市花見川区瑞穂1丁目1番地

TEL：043-275-6296

FAX：043-275-6298

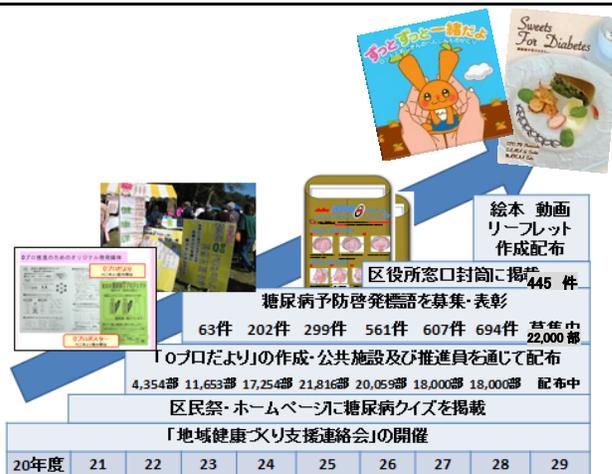


図 花見川糖尿病0プロジェクトの推進経過

◇活動方針

1 活動の背景

千葉市花見川区は、千葉県のほぼ中央部に位置する千葉市の6行政区のひとつである。平成29年7月1日現在、面積34.19km²、人口178,479人、世帯数78,917世帯、高齢化率26.2%である。

健康日本21の千葉市計画である「新世紀ちば健康プラン」の中間評価では、策定時（平成12年度）と中間評価時（平成19年度）の基本健康診査結果を比較すると、糖尿病及び糖尿病の疑いのある人の割合が、男20.6%2.9ポイント増、女10.2%1.9ポイント増と、市としては増加していた。平成20年度の国保特定健康診査結果では、糖尿病及び糖尿病の疑いのある人の割合（特定保健指導値HbA1c5.2以上（JDS値））は、花見川区は男66.4%、女66.0%（市平均男60.6%、女59.9%）と、市内で最も高かったことから、糖尿病を中心とした生活習慣病の予防に取り組む必要性があった。

2 活動目的および方針

糖尿病を中心とした生活習慣病の予防を目的とし、乳幼児をもつ家庭から高齢者までの全ての人々を対象に、食事や運動などの適切な生活習慣をもつ人々が増え、定期的に健診や歯科健診を受け、心身のセルフケアの実践力が高まるよう、予防のための普及啓発活動を実施することとした。普及啓発活動が途切れなく繰り返し継続していくよう、関係者や関係機関とのネットワークを構築していくこととした。

この予防のための千葉市花見川区の取り組みを、「花見川糖尿病0プロジェクト」と名付け、平成20年度から10年間を目途に実施することとした。

活動成果報告書

◇活動内容とその成果

1 関係者の意思統一および連携強化

関係者の意思統一を図るために、区担当医師・歯科医師・薬剤師、推進員、町内自治会、糖尿病療養者で構成する「地域健康づくり支援連絡会」を開催し、毎年協議を重ねた。

2 具体的な活動内容

1 つ目は、平成 22 年度から糖尿病予防の必要性を記載した「0 プロダより」を作成し、妊婦乳幼児から高齢者を対象に、各種健診、健康教育、家庭訪問等で途切れなく、繰り返し情報を届けた。地域保健推進員を通じて、生後 2 か月児をもつ全ての家庭に、食生活改善推進員を通じて、公民館や自治会館での地区伝達活動の参加者に配布し、さらに、公共施設、医療機関、理美容組合に掲示を依頼した。2 つ目は、平成 23 年度から糖尿病予防の標語を募集し、優秀作品は区長表彰とし、選考方法は、区役所職員による一次審査、区民祭での来場者投票による二次審査とし、選考過程においても意識づけを図った。選ばれた作品は、ホームページや普及啓発媒体「健康づくり支援マップ」の 1 面に印刷して配布するなど、多くの人の目に留まるようにした。標語は、校長会にて平成 25 年度から小学生の夏休みの課題となり、小学生をもつ全ての家庭で標語制作にかかる機会となった。3 つ目は、子育て世代から子どもと一緒に楽しみながら関心を持てるよう、平成 28 年度に市内大学と協働し、キャラクター「ロット」とそのキャラクターを活用した親子で読む啓発絵本、リーフレット及び啓発動画を作成した。

3 活動成果

(1) 機関連携からみた成果

関係者の意思統一を意図した「地域健康づくり支援連絡会」は、平成 20 年度から現在まで継続して開催してきており、参加者からの声を受けて平成 27 年度から年 2 回としている。参加機関は、区担当医師会医師・歯科医師会歯科医師・薬剤師会薬剤師、糖尿病療養者、地域保健推進員、食生活改善推進員、町内自治会連絡協議会、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、公民館、小学校、あんしんケアセンター（地域包括支援センター）、民間運動施設等約 20 機関と増え、グループワークを通じて活発な意見交換が行われるようになってきている。

(2) 活動内容からみた成果

オリジナル啓発媒体「0 プロダより」の配布数は平成 22 年度 4,354 部から平成 29 年度 22,000 部、啓発標語の応募数は平成 23 年度 63 件から平成 29 年度 445 件、平成 28 年度に作成した啓発絵本の配布希望は 300 箇所となった。各事業での市民調査では、当プロジェクトの認知度は、平成 23 年度と比べて平成 28 年度 40%と 16 ポイント高まり、認知されてきている。平成 29 年度に、保健福祉センター来館者を対象に、一定期間、認知度調査した結果では 62.9%、地域に出張して行ったイベントで調査した結果では 59.0%と、保健福祉センター来館者やイベント参加者であるという偏りはあるものの、高値となってきている。

当プロジェクトは、市の庁内においても評価を得られ、平成 26 年度から、区役所窓口封筒の片面にプロジェクトの特集記事を掲載し、区役所来庁者全てに配布できるようになった。平成 27 年度からは、区の自主企画事業のひとつに位置づけられ、予算化することができた。同年、ソーシャル・キャピタルを醸成する取り組みとして、千葉県健康格差分析事業報告書の好活動事例集に取り上げられている。

(3) 活動の効果および意義

国保特定健康診査結果による糖尿病及び糖尿病の疑いのある人の割合は、平成 20 年度当初と比べ、平成

活動成果報告書

24年度は花見川区男 57.6%8.8ポイント減、女 56.5%9.5ポイント減（市平均男 55.7%4.9ポイント減、女 53.8%6.1ポイント減）と市の減少率よりも減ってきている。メタボ該当者割合は、平成21年度と比べ、平成26年度は花見川区男 25.4%2.9ポイント減、女 8.2%2.1ポイント減（全国男 21.2%0.6ポイント増、女 6.2%0.2ポイント減）となっており、全国に比べても減少傾向にある。これらのことから、健康寿命の延伸に関して、当プロジェクトによる一定の効果と意義があると考えられる。

また、適切な生活習慣に無関心な20歳代から40歳代に対しては、キャラクター「ロット」とそのキャラクターが活躍する親子で読む啓発絵本や、スイーツを切り口としたリーフレット及び啓発動画の活用により働きかけるためのツールを開発できたと考えている。

◇今後の計画

1 特にPRしたいこと

大学との協働により制作したキャラクター「ロット」と「ロット」が活躍する啓発絵本「ずっとずっと一緒だよーロットとおじさんのへんしんものがたりー」は、花見川区の特産品であるニンジンモチーフとしていることにより地域住民が親しみを持ち、ストーリー性のある絵本であることで子育て世代に働きかけるためのツールとして期待できる。スイーツを切り口としたリーフレットについても、デザイン性にこだわって作成したことにより、多くの人の目に留まり、特に若い女性への啓発に期待できる。

これらの取り組みは、平成29年4月21日、千葉日報「親子で糖尿病予防を 淑徳大生が啓発絵本 千葉市花見川区の推進事業」、平成29年4月25日、朝日新聞「糖尿病啓発の絵本」、平成29年5月3日、産経新聞「絵本などで糖尿病予防啓発 花見川区、学生とコラボ」に掲載されている。

2 今後の計画

関係者の意思統一を図るための「地域健康づくり支援連絡会」の開催、啓発媒体「0プロだより」の改訂と配布、啓発標語の募集と表彰を継続する。生活習慣に無関心な年齢層の中で、子育て世代には、キャラクター「ロット」を啓発媒体に活用し、「ロット」が活躍する啓発絵本を増刷し、配布希望のあった小児科、眼科、耳鼻科等の医療機関や薬局、子育て関係施設に配布し、これらの関係機関を通じて働きかけられるようにする。また、若い女性を中心に、スイーツを切り口とし、作り方のQRコードを掲載し、豊富な写真にエクササイズやクイズ形式の情報を添え、バックに入るコンパクトサイズのリーフレットを配布する。さらに、大学生が扮する啓発動画は、ホームページからの配信や検診時の待ち時間等に放映するなどの活用を図る。スイーツリーフレットの次の段階として、野菜を豊富に摂れるメニューのリーフレットを、メニュー選びなどの原案作成過程から、大学の学生研究員を通じて無関心層に働きかけていき、野菜のメニューの種類を増やし、主菜副菜レシピ集として充実させていく。また、運動習慣に特化したリーフレットを作成し、地域保健推進員や食生活改善推進員に研修を行い、推進員活動を通じて普及啓発を行っていくとともに広く活用していくことを計画している。

若年者や子育て世代向け、高齢者世代向けの啓発方法に加えて、あらゆる世代に対応できる食習慣や運動習慣に特化した啓発方法を考案し、世代ごとの特徴を踏まえ、リーフレットや動画の配信など、あらゆる啓発媒体を用いた活動を行い、次世代に継承していくために、当プロジェクトの充実を図り、推進していく予定である。